

「総合知」の視点と原子力利用の諸課題——「風評」問題をめぐって

(1) 委員会設立のねらいと活動の経過報告

2024. 3. 26

原子力学会 社会環境部会 (JAEA) 佐田 務

本内容は所属組織の見解ではなく、個人の見解です 1

「原子力に関わる人文・社会科学的総合知問題 研究専門委員会」とは (詳細は予稿集)



1. 趣旨

- ・原子力学会社会・環境部会運営小委のメンバーを中心に構成。
- ・原子力をめぐる問題を人文・社会学的な視点や「総合知」をふまえて分析
- ・当面は処理水の海洋放出をめぐる「風評」を検討
- ・その後は順次、別のテーマを検討予定

2. 委員構成

主査 土田昭司 / **幹事** 寿楽浩太、佐田 務 / **委員** 稲村智昌、木藤啓子、桑垣玲子、小林容子、高木利恵子
高嶋隆太、竹田宜人、布目礼子、廣瀬大輔、諸葛宗男、山本隆一

3. 経緯 2022年4月～2024年1月に、計11回の会合を開催

これまでの議論で提示されたキーワード



風評被害「報道などにより、本来『安全』とされる食品、商品、土地を人々が危険視することにより、引き起こされる経済的な被害」 （関谷「原子力災害と風評被害」2021）

- ・安全は「何を守るか」が前提
- ・安全の尺度は人によって異なる
- ・正確な情報の流布は必要、しかしそれだけで風評問題が解決するわけではない
- ・欠如モデル、原子カムラのエスノセントリズムとパターナリズム
- ・価値対立の代理戦争
- ・不確実性に対する心理的脆弱性
- ・リスク認知、確証バイアス、リスクコミュニケーション、リスクガバナンス
- ・風評を促進しやすい流通過程や社会的装置、予言の自己成就
- ・疑似環境、疑似イベント、議題設定機能
- ・「私たちが創る」風評は、なくすことができる、共同幻想

これまでに議論してきたこと

安全の尺度は人によって異なる-それぞれに異なる規範や信条、正義



個人だとー

主観リスク・・・未知性、能動か受動か、不公平性
所属集団の規範・・・知識の多寡、専門家や政府への信頼度
病弱な子どもをもつ親・・・「懸念」への関心高い

集団だとー

メディアでの差異・・・社是（対策重視か批判か）
セクターによる差異・・・客観性重視する政府、電力、学
国による差異・・・地域性、政治的利害

図はhttps://jsite.mhlw.go.jp/aichi-roudoukyoku/jirei_toukei/anzen_eisei/_121845/_121855.html



これまでに議論してきたこと

安全の尺度は人によって異なる-それぞれに異なる規範や信条、正義
日本が海洋放出を決めた後の海外諸国の反応(2021年)
各国の論調は今もほぼ同じ(韓国のみトーンダウン)

IAEA 「日本の決定発表を歓迎」「方法は国際的な慣行にも沿う」(4/13)

米国 「世界的に認められた安全基準に従ったアプローチを採用」(4/12)

欧州連合 「国際的な義務を果たし、十分な安全を確保することを期待」(4/13)

韓国 「一方的な措置であり、(韓国)国会は直ちに撤回を決議」4/13

➡ 韓国は尹政権に移行後、批判をトーンダウン

ロシア 「リスク評価の情報開示は不十分」

中国 「非常に無責任な行為、健康や近隣諸国の人々の利益に重大な影響」(4/13)

北朝鮮 「人類の健康と安全、生態環境を深刻に脅かす許し難い犯罪」(4/15)。



これまでに議論してきたこと

価値の代理戦争

原子力に批判的なセクターからの情報発信は、処理水の危険を強調する傾向
社民党「核汚染水は少量でも問題。影響は長期に」(2024年2月24日)

国内メディアの論調は、中国による禁輸措置で変化(以下は社説)

処理水あす放出へ、誠意描いた政治の無責任(毎日8月23日)

処理水の放出 政府と東電に重い責任(朝日8月23日)

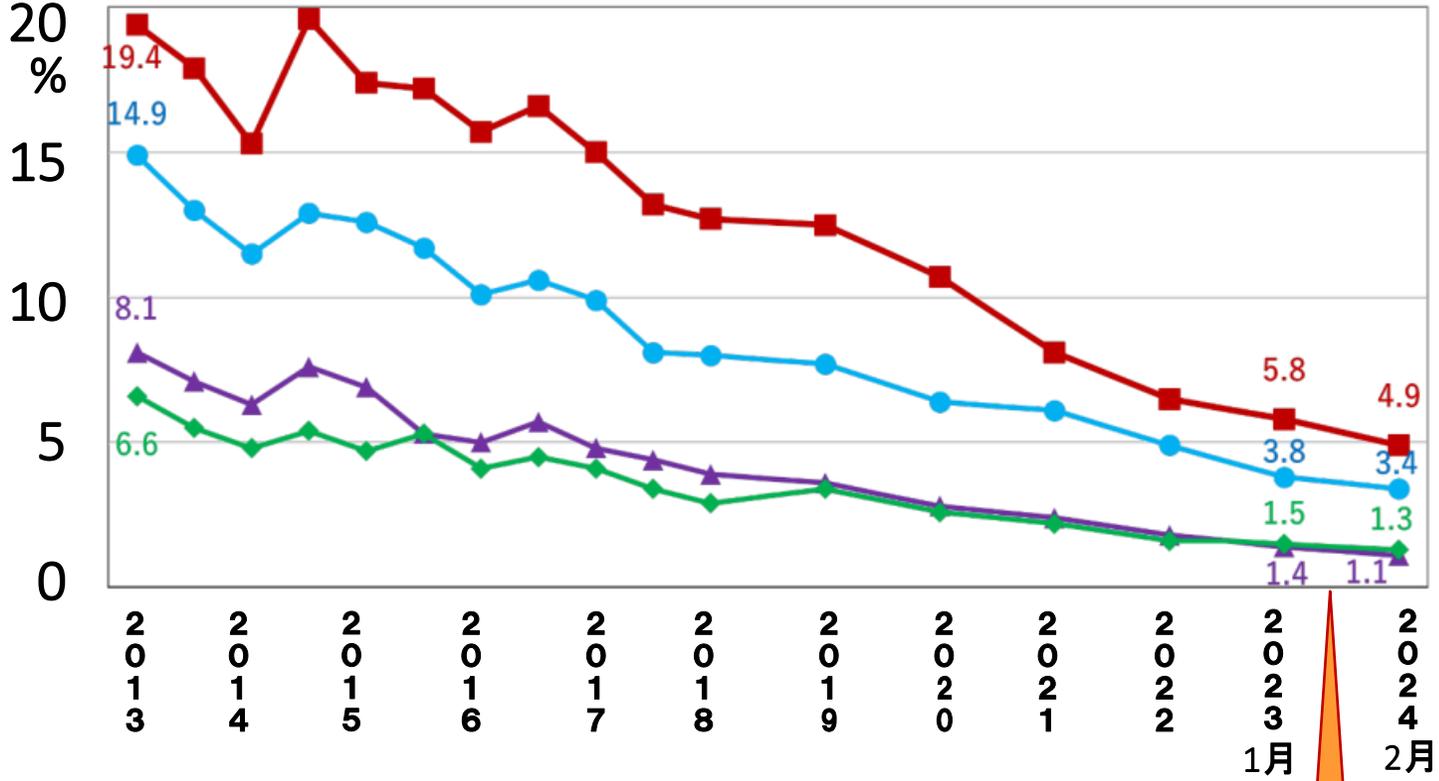
中国の禁輸措置

処理水めぐり中国の反発 沈静化へ責任ある対応を(毎日8月29日)

中国の禁輸 筋が通らぬ威圧やめよ(朝日8月26日)8月29日



これまでに議論してきたこと



- 福島県
- 岩手、宮城、福島県
- 茨城、栃木、群馬県
- 東北全域

消費者庁「風評に関する消費者意識の実態調査(第17回)」2024

処理水放出

放射性物質を理由に購入をためらう食品の産地
福島県産品の購入をためらう人は過去最低に

これまでに議論してきたこと

風評を増幅しやすい社会的な前提

2007年に中国の天洋食品の餃子に殺虫剤混入。

事件後、日本の消費者は中国の農産物を含む食品全体への購買を控えた

不信の構造(品質管理、相手への不信)**があれば、リスク認知は増幅しやすい。**

「政治化された環境は、リスクが簡単に増幅されるベースを提供」(Kasperson, 1988)

不確実性に対する心理的脆弱性 不安から過度な反応へ→善意のデマ
流言の流布量 = 情報の重要さ × 内容の曖昧さ (オルポートとポストマン)

「私たちが加担し、創る」風評は、なくすことができる

人づての話やネット情報をうのみせず、ものごとを冷静に見る